

前年度までの検討概要

1. 前年度までの検討内容の振り返り

- ・俱知安町では、北海道新幹線俱知安駅の開業に向け、新駅周辺の整備とまちなかの賑わい創出に向けた取組を推進するために、令和3年度より「北海道新幹線俱知安駅周辺整備推進委員会（以降、「推進委員会」と称す）」を設置。
- ・令和3年度は、意見交換や打合せを含め、計8回の検討の場を設け、主に「新駅東口広場の配置計画の検討」「駅舎デザインコンセプトの検討」「都市施設に導入する機能と配置の検討」を行いました。

第1回委員会
(R3.5.21開催)

- ・委員会の目的及びこれまでの検討内容のふりかえり

第2回委員会
(R3.6.22開催)

- ・新駅東口広場のレイアウトの検討

第3回委員会
(R3.8.3開催)

- ・都市施設の導入機能
- ・駅舎デザインコンセプト要望書の検討
- ・新駅東口広場のレイアウトの検討

意見交換会
(R3.8.26開催)

- ・新駅東口広場のレイアウトの意見交換

第4回委員会
(R3.10.6開催)

- ・新駅東西広場の機能分担
- ・都市施設の導入機能
- ・駅舎デザインコンセプト要望書の検討

委員打合せ
(R3.11.24開催)

- ・新駅東口広場の基本構想の検討
- ・都市施設の基本構想の検討
- ・駅舎デザインコンセプト要望書の検討

第5回委員会
(R4.1.20開催)

- ・新駅東口広場の基本構想の検討
- ・都市施設の基本構想の検討
- ・駅舎デザインコンセプト要望書の検討

第6回委員会
(R4.2.25開催)

- ・R3年度の検討結果の確認

1. 前年度までの検討内容の振り返り

- 令和4年度は、勉強会を含め、計6回の検討の場を設け、主に「新駅西口広場の配置計画及び駐車場に関する検討」と「新駅の都市施設に導入する機能とその規模及び配置の検討」を行いました。

第7回委員会
(R4.4.27開催)

・駅舎デザインコンセプトの要望書の検討

第8回委員会
(R4.5.27開催)

・西口広場の配置計画の検討
・都市施設の基本構想の検討
・駅舎デザインコンセプトの要望書（最終版）の報告

第9回委員会
(R4.8.3開催)

・西口広場の配置計画の検討
・都市施設の基本構想の検討

勉強会
(R4.10.6開催)

・西口広場の検討（レイアウトに関する検討、駐車場のデザイン、バス乗り場の防寒対策など）
・都市施設の検討（防寒性能・視認性に配慮した自由通路の事例、旅行者に配慮したトイレの事例）

第10回委員会
(R4.11.9開催)

・西口広場の配置計画の検討（ロータリー＋立体駐車場案を主体として議論）
・都市施設の基本構想の検討（トイレの面積、2階へつづく階段の形状と場所、吹き抜け空間の有無を検討）

第11回委員会
(R4.12.19開催)

・都市施設の基本構想の検討（2階へつづく階段の形状と場所、吹き抜け空間の有無を検討）

2. 東西広場の機能

西口広場の機能（R4整理済）
○観光送迎バスの乗降、待機場（15台）
○自家用車駐車場（200台以上）

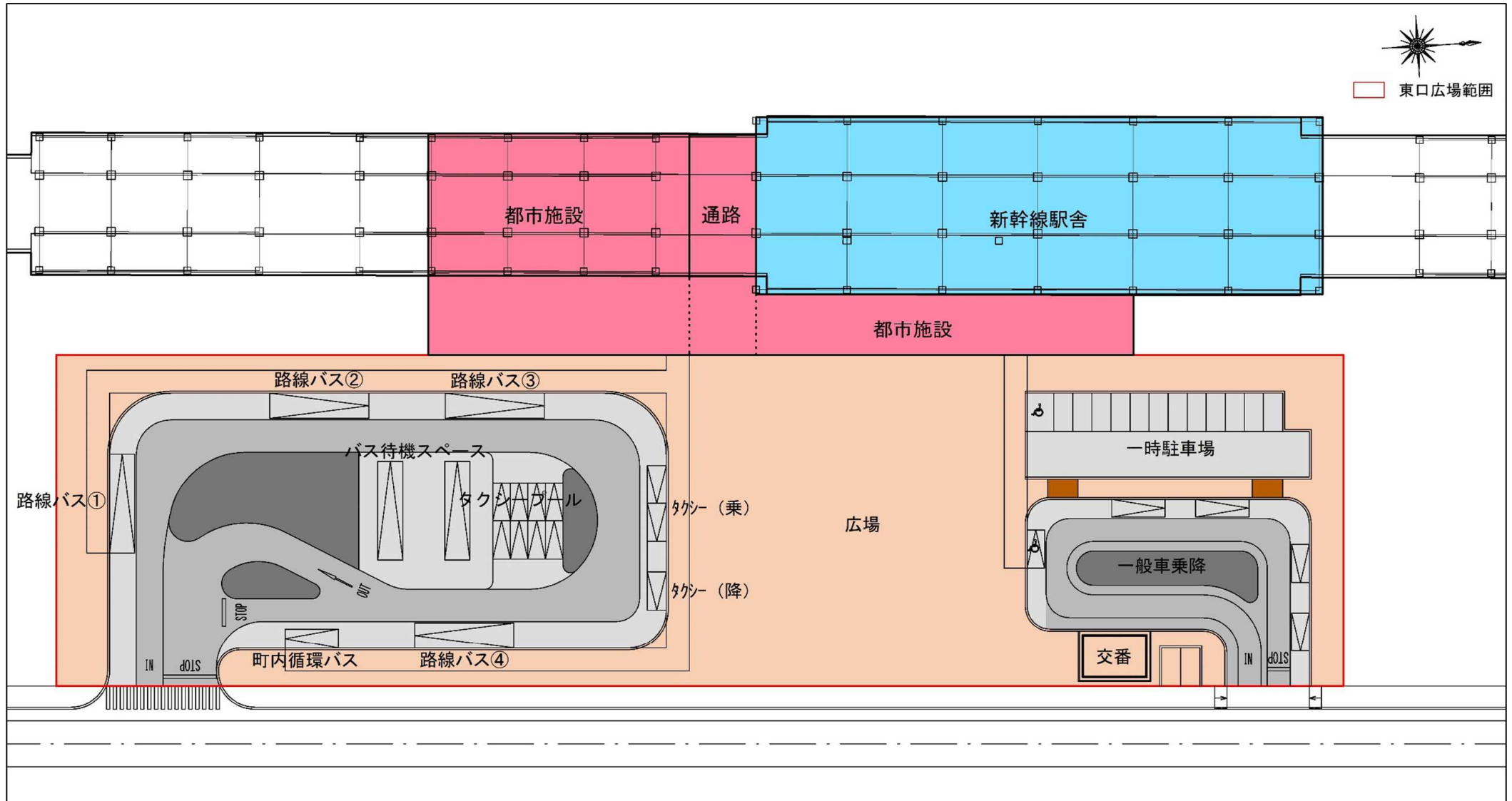
東口広場の機能（R3整理済）
○バスの乗降場（5台）
○タクシーの乗降場（3台）
○タクシープール（8台）
○自家用車の乗降場（3台）
○宿泊送迎車の降車場（2台）
○一時駐車スペース（10台程度）

4



3. 東口広場の整備概要

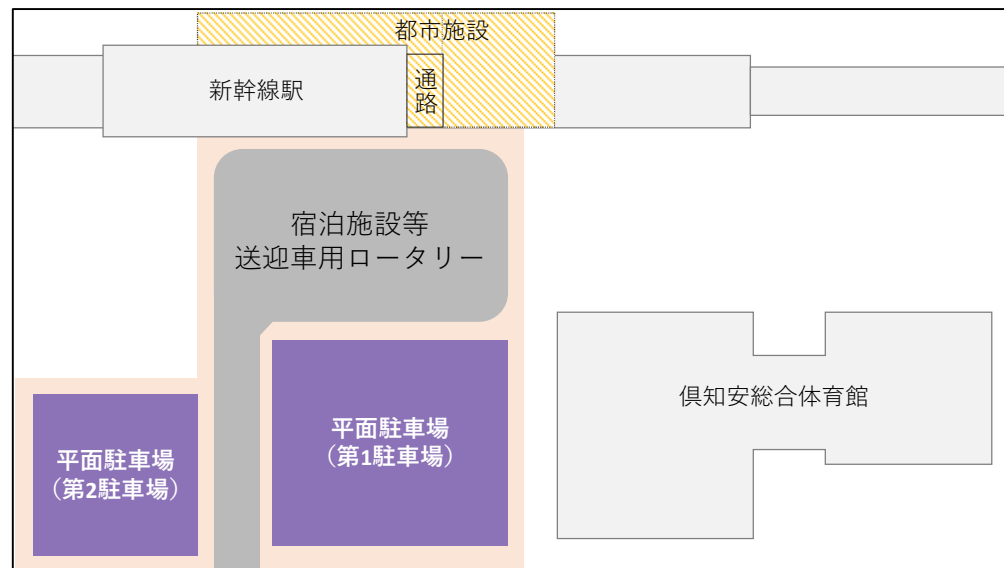
- 新駅東口広場は、下図の内容で整理しております。



4. 西口広場の検討概要

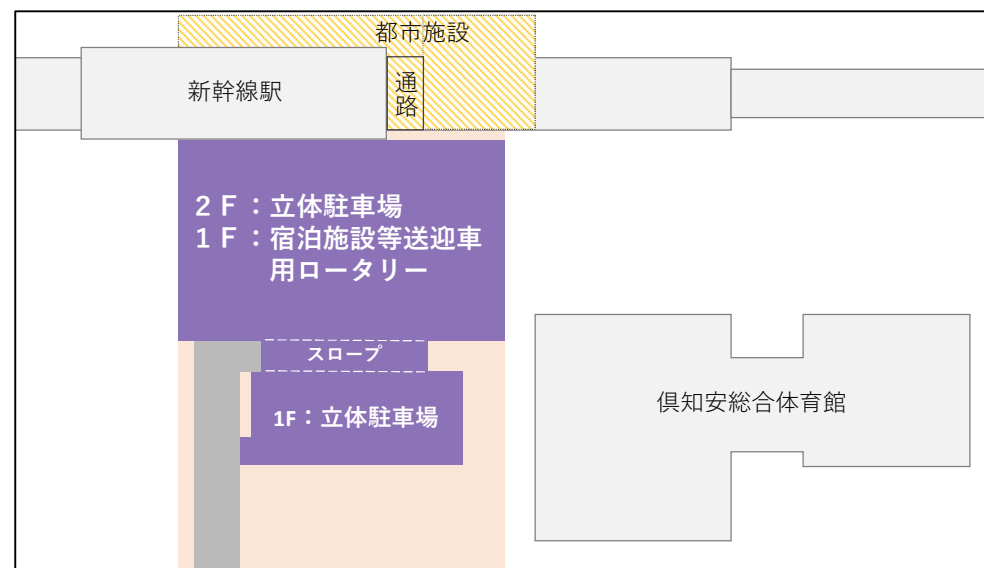
- 令和4年度では、西口広場の配置計画及び駐車場の検討を行いました。
- 西口広場には、観光客や宿泊施設等の送迎車用のロータリーを計画しており、新幹線利用者の駐車場（収容台数：200台程度）を整備予定です。
- 西口広場の配置について、推進委員会では、以下に示す平面駐車場案と立体駐車場案の2案で検討を進めています。なお、立体駐車場案は、冬期間の雪対策として、ロータリー上に駐車場を整備するイメージで検討しています。
- 次ページ以降に、各配置案のイメージ図も記載します。

平面駐車場案



- 平面駐車場を整備する案です。
- 冬期はロータリー・駐車場の除雪費用が発生します。
- 宿泊施設等送迎車用ロータリー部分には、降雪対策の屋根等の検討が必要です。
- 第2駐車場については、今後の検討が必要です。

立体駐車場案



- 2層の立体駐車場（1F：宿泊施設等送迎車用ロータリー、2F：立体駐車場）と1層の立体駐車場を整備する案です。
- 冬期の除雪の必要はありませんが、平面駐車場案よりも整備費用が高くなります。

4. 西口広場の検討概要

平面駐車場案（イメージ）



立体駐車場案（イメージ）



5. 都市施設の検討概要

- 令和4年度では、令和3年度に引き続き、都市施設の配置位置、導入機能及び規模を検討するとともに、都市施設に関する論点及び方針の整理を行いました。

■町外・来訪者からの視点

- 観光情報を取得できる機能
- 倶知安をはじめ広域的なエリアの物産を購入できる機能
- ゆったりと待ち時間を過ごすことができる空間づくり
- エリアのシンボルである羊蹄山の眺望を楽しめる空間づくり
- ビジネスで来訪した方の利便性の確保

■町民からの視点

- 高校生・町民が集まることが出来る拠点の形成
- 鉄道の歴史を伝える機能
- 町の魅力を伝える情報発信拠点
- イベント時などの賑わい空間づくり
- 財政負担の軽減

■これまでの議論

- ①眺望：屋上への眺望空間の設置、屋内の眺望スペースの確保（2階）
- ②情報発信機能：広域的な情報・物販を集めた情報発信機能+物販機能
- ③1階と2階の機能分担：1階（情報発信・物販）、2階（滞在・休憩）
- ④町民の日常利用への配慮：スタディスペース、飲食機能
- ⑤倶知安駅の歴史を伝える機能：鉄道遺産の展示

駅舎デザインコンセプト：羊蹄の四季の恵み ～ふるさとと世界が出会う駅～

方針1 季節感の演出

～オールシーズン楽しめるリゾート地の玄関口～

例)

- 天井吊りバナー（タペストリー）等による演出
- アウトドアギアのディスプレイ（カヌー、自転車、スキーなど）
- 屋外の景観との一体性の確保
- 四季を通じたイベントの開催
- 四季をPRできる映像制作・ディスプレイの展示
- 夜間の利用・見え方への配慮

方針2 国際的なリゾート地の玄関口に ふさわしい空間づくり

～待ち時間を豊かに過ごせる空間の演出～

例)

- 自然素材を多用したデザイン
- ゆったりとくつろげる待合空間
- 世界標準の機能性（通信など）
- 荷物の大きさへの配慮（トイレ、手荷物預かり機能、エレベーター、階段、通路など）
- 多言語案内、ユニバーサルデザイン
- スキー場情報など充実した広域の観光情報発信

方針3 倶知安・羊蹄エリアの地域性

～倶知安駅として、地域としての歴史・文化の継承～

例)

- 鉄道遺産の展示
- 広域的な物産（羊蹄山麓・岩宇含む後志全域）販売機能
- 地域の食文化を踏まえたオリジナルメニューの提供
- 後志全域を含む広域的な観光情報の提供（ジオラマ・広域地図などの活用）
- 二次交通関連情報の充実
- 駅前周辺エリアとの連携によるエリア全体の活性化を促す
- 個性的な地元テナントの誘致

方針4 効率的で柔軟な運営を見据えた 施設づくり

～持続・発展可能な運営の実現～

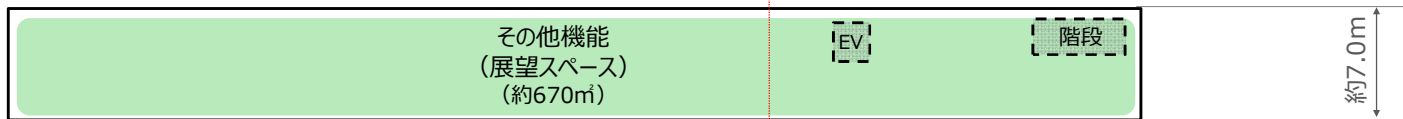
例)

- 官民連携による運営体制の検討
- 維持コスト低減を見据えた施設づくり
- 収益性の確保（商業、飲食）
- 需要変動に対応し、催事やイベント時でも柔軟な対応ができる間仕切り
- 駅前通りや旭ヶ丘公園との連携による町民が集える拠点づくり
- 多様な利用者ニーズを汲み上げて反映する仕組みづくり
- 冬期間も安心して利用できる施設づくり（雪の演出）

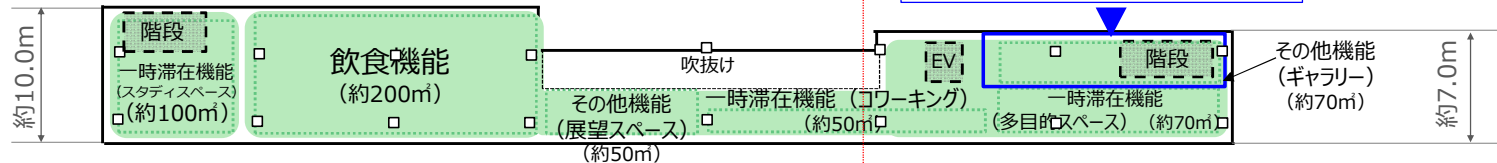
5. 都市施設の検討概要

▲ : 動線上、整備の必要性が高い出入口
 ▲ : 利便性を高めるために必要な出入口

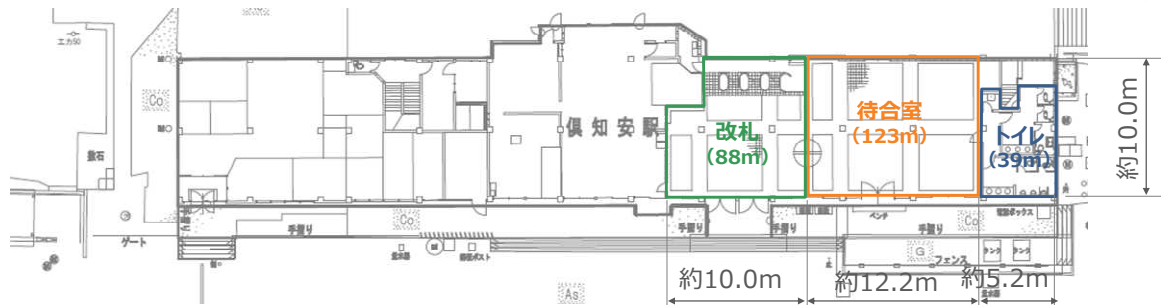
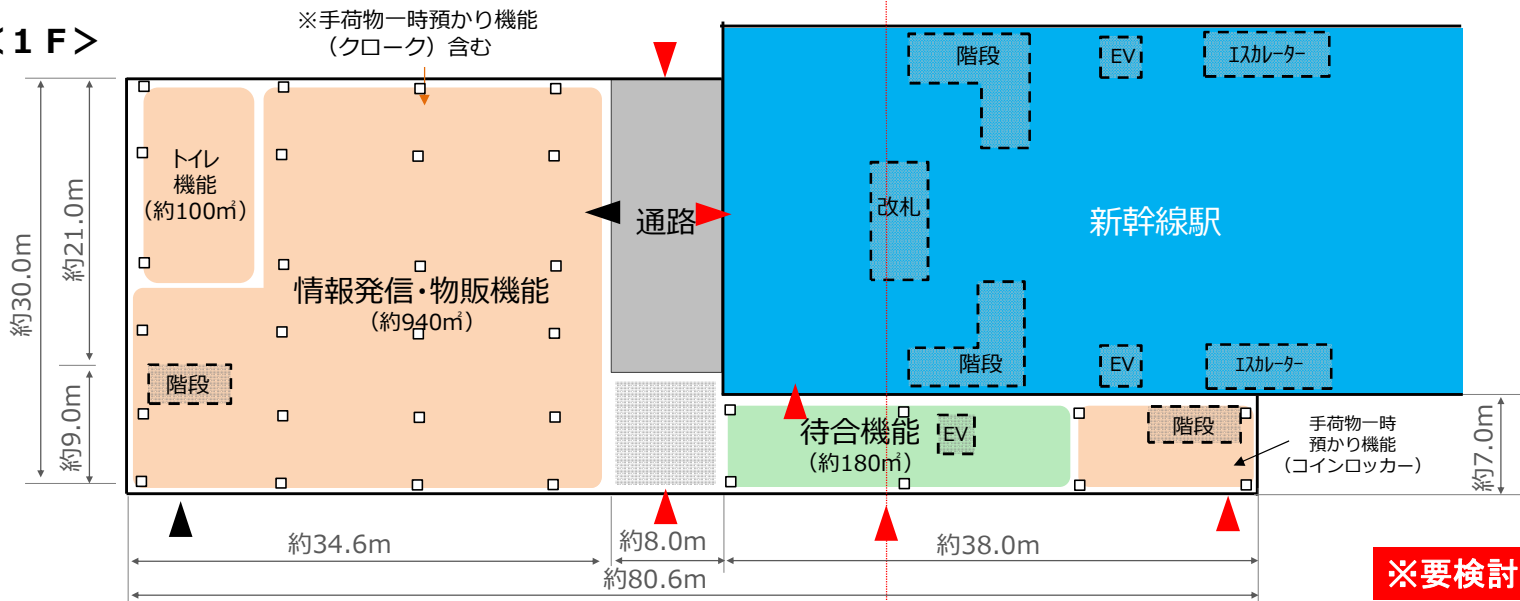
< 屋上 >



< 2 F > ※ 2 Fにもトイレ機能の配置を検討



< 1 F >



※駅の内部レイアウトは概略検討状況であり、今後関係者と協議調整していく予定 (昇降設備と改札向き以外は、未確定)

都市施設の配置位置及び導入機能・規模の検討結果

6. 駅舎デザインコンセプトの検討概要

北海道新幹線倶知安駅デザインコンセプト

羊蹄の四季の恵み

～ふるさとと世界が出会う駅～

羊蹄山は、豊かな自然に恵まれた羊蹄山麓地域の象徴であり、四季折々に様々な恵みをもたらしてくれる、地域住民の心の拠り所ともいえる存在です。「羊蹄の四季の恵み」という言葉には、羊蹄山やニセコ連峰の恵みに感謝し、四季を通じての自然景観と調和する新駅づくりを目指したいという思いを込めています。

さらに、先人が築きあげてきたこの地域に生活する全ての人々を「ふるさと」という言葉で、新幹線を利用して国内はもとより世界中から訪れる人々を「世界」という言葉で表現しました。また、地域住民と来訪客双方にとって親しみやすい空間で交わることで、新駅周辺を含めた新たな賑わいを創りあげたいという思いを「ふるさとと世界が出会う駅」という言葉で表現しました。



駅デザインに関する要望事項

01 自然環境と調和する 駅づくり

羊蹄山を眺望できる駅・・・ P.4

四季を感じられる駅・・・ P.5

地域産材を活用した駅・・・ P.6

ふるさとと世界が 出会う駅づくり 02

地域の賑わいを感じられる駅・・・ P.7

周辺景観と調和した駅・・・ P.8

世界的なリゾート地の玄関口にふさわしい駅・・・ P.9



6. 駅舎デザインコンセプトの検討概要

01 自然環境と調和する駅づくり

羊蹄山を眺望できる駅

羊蹄山麓地域の象徴である羊蹄山を都市施設やホーム等から眺望できるようにする。

■ JR 俱知安駅 (R3.6 時点)



【駅舎2階からの羊蹄山の眺望】

■ 北陸新幹線 上越妙高駅 (自由通路)



写真提供：JR 東日本建築設計
【妙高連山を一望できる展望デッキ】

■ FUJIYAMA ツインテラス



■ サンモリッツ駅 (サンモリッツ：姉妹都市)



■ WITH HARAJUKU (JR 原宿駅前)



四季を感じられる駅

羊蹄山麓地域は羊蹄山をはじめニセコ連峰、清流尻別川など豊かな自然に囲まれており、四季折々に様々な景観が楽しめる地域となっている。地域外からの来訪者が、この地域の豊かな四季を感じられるよう駅とする。

■ 俱知安町の四季



春
夏
秋
冬



■ 北陸新幹線 飯山駅 (都市施設)



【飯山市の四季を表現した柱】

6. 駅舎デザインコンセプトの検討概要

01 自然環境と調和する駅づくり

地域産材を活用した駅

地域で産出される木材（トドマツやカラマツ等）などの自然素材を使用し、暖かみを感じられる駅とする。

■後志地域の代表的な樹種と活用イメージ



【JR 天塩中川駅の待合室】



トドマツ



【北海道議会庁舎】



カラマツ

■北陸新幹線 飯山駅（自由通路）



■京王線高尾山口駅



■北陸新幹線 長野駅（駅ビル）



出典：JR 東日本建築設計HP

■オスロ・ガーデモエン国際空港駅（ノルウェー）



02 ふるさとと世界が出会う駅づくり

地域の賑わいを感じられる駅

新幹線を利用して日本はもとより世界中から訪れる来訪者が、地域の伝統や文化、賑わいを感じられる駅とする。

■北陸新幹線 飯山駅（都市施設）



■バンクーバー空港（フードコート）



■バンクーバー空港（カナダ）



■ウィスラービジターセンター（カナダ）



■日向市駅



出典：小野幸康都市設計事務所HP

■北陸新幹線 金沢駅（改札内待合室）



【待合室の壁面を活用した工芸品の展示】

6. 駅舎デザインコンセプトの検討概要

02 ふるさとと世界が出会う駅づくり

周辺景観と調和した駅

駅前通りの街並みや倶知安駅の背後に見えるニセコ連峰など駅周辺の景観と調和した駅とする。

■ JR 倶知安駅及びその周辺の景観



【駅前通りから JR 倶知安駅を臨む】



【旭ヶ丘総合公園から見た JR 倶知安駅と市街地】



【JR 倶知安駅（西側）の景観】

駅前通りにおける景観づくり方針（案）

歩く楽しみを感じて集まり にぎわい広がる駅前通り

- ◆安全・安心して分かりやすい歩行空間の確保
- ◆空への広がりのある明るい道路空間の確保
- ◆歩行を促す賑わいがあり居心地の良い空間づくり
- ◆統一感のある街並みづくり

■ JR 旭川駅



【志別川と調和している旭川駅】



【志別川沿いの緑地空間と旭川駅】

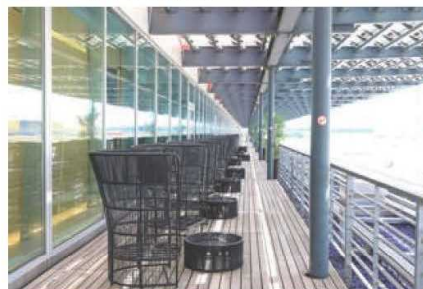
世界的なリゾート地の玄関口にふさわしい駅

倶知安駅は、アジアを代表するオールシーズンリゾートの玄関口として広く世界中の方々が利用することが想定されることから、世界的なリゾート地の玄関口にふさわしい駅とする。

■ カルガリー国際空港（カナダ）



■ チューリッヒ国際空港（スイス）



■ バンクーバー国際空港（カナダ）



■ 高輪ゲートウェイ駅



■ UNWIND HOTEL & BAR（札幌市）



6. 駅舎デザインコンセプトの検討概要

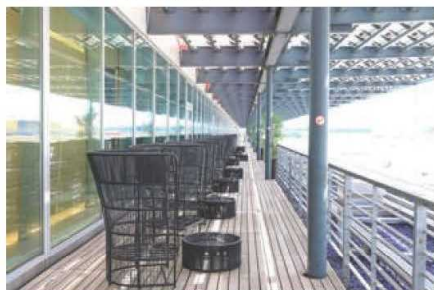
世界的なリゾート地の玄関口にふさわしい駅

倶知安駅は、アジアを代表するオールシーズンリゾートの玄関口として広く世界中の方々が利用することが想定されることから、世界的なリゾート地の玄関口にふさわしい駅とする。

■ カルガリー国際空港 (カナダ)



■ チューリッヒ国際空港 (スイス)



■ バンクーバー国際空港 (カナダ)



■ 高輪ゲートウェイ駅



■ UNWIND HOTEL&BAR (札幌市)

